

医科大学に進学できる高校の創設

若いドクター(医師)が「なぜ神栖市に住まないか?」「自分の子供がランクの高い医科大学に進学できる高校が無い」からという意見が多数あります。

私は神栖市内の県立高校を市立高校にして「進学特化高校」にすることを提案しています。現在は神栖市から市立銚子・佐原・鉢田一高・清真学園などに年間約300人の子供達が市外通学をしています。医科大学に進学できる高校が神栖市内に無いのが原因と考えています。

私は神栖市内の県立高校を市立神栖高校に移管できないかを茨城県議会文教警察委員会で質問。小泉元伸茨城県教育長から「神栖市内の県立高校の市立高校化が魅力ある学校教育につながるのであれば、前向きに検討したい」と答弁をいただきました。また若いドクターが神栖市に移住定住し、子育て環境を整えるために進学に特化した神栖市立高校を創設する必要があると考えます。



岸田文雄現内閣総理大臣に埼玉・千葉の県会議員らと共に陳情する西條昌良県議



茨城県議会文教警察委員会で「神栖市内の県立高校を進学校にするため市立神栖高校に」と提案する西條昌良県議

津波防ぐ海岸への松植樹「白砂青松」

東日本大震災で海拔の低い神栖市は津波被害を受けました。現在は盛土を進める一方で、津波被害を低減する松の植林を海岸沿いに進め24万本を植えましたが、これを更に増殖する様要望しています。

白砂青松の美しい自然景観を整えることもできます。神栖市の海岸が美しい白砂青松の名勝となり、そして万が一の津波発生時に減災でき、塩害・飛砂防止にも役立つことを願っています。



神栖市の海岸沿いに植樹した松の育成具合を確認する西條昌良県議

銚子市など近隣市との連携

市立銚子高校出身は父を含め親子3代です。利根かもめ大橋が開通する際には当時の安藤勇千葉県議から「道路がなければ橋はできない」と相談され、県道波崎～銚子線を両県で同時に、都市計画を決定させる活動をするなど銚子市とは縁が深いです。

銚子市沖洋上風力発電も事業者が決まり、メンテナンス開始も着々と準備が進んでいます。基地港・鹿島港から銚子市の名洗港に発電設備を運ぶわけですから銚子市の皆さんとも連携し、また鹿島アントラーズのオフィシャルスポンサーが㈱メルカリとなり、県立カシマサッカースタジアムを新たに建設する気運が高まっており、隣接する鹿嶋市とも協力していく必要があると考えます。



鹿島港周辺道路 渋滞対策【対策案】

【潮来ICから鹿島港(北・南・中)まで高規格道路並みの走行性を確保】

◆渋滞対策(案)

○北ふ頭ルート: 鹿島港IC線の4車線化、堀割川交差点の立体化 等

○宮中佐田線ルート: 新神宮橋4車線化、宮中佐田線の延伸 等

○南ルート: 知手交差点の左折2車線化と右折ランプ橋 等

◆対策イメージ図[4車線化]

側道

側道

◆対策イメージ図[立体化]

側道

側道

◆凡例

●事業中止箇所

●北ふ頭ルート

●宮中佐田線ルート

●南ルート

◆対策候補

●北ふ頭ルート対策箇所

●南ルート対策箇所

◆信号設置箇所

●現状

●対策

●北ふ頭ルート: 14箇所

●南ルート: 24箇所

◆対策効果

●北ふ頭ルート: 24分 → 8分

●21[km/h] → 57[km/h]

●事業費: 55億円

●新規中止田佐田線ルートの現状よりも相場が見込める

●北ふ頭ルート: 27分 → 14分

●27[km/h] → 48[km/h]

●事業費: 50億円

●新規中止田佐田線ルートの現状よりも相場が見込める

●北ふ頭ルート: 34分 → 17分

●26[km/h] → 50[km/h]

●事業費: 50億円

●新規中止田佐田線ルートの現状よりも相場が見込める

●北ふ頭ルート: 14.4km

●北ふ頭ルート: 8.1km

●北ふ頭ルート: 21[km/h]

●北ふ頭ルート: 27[km/h]

●北ふ頭ルート: 24分

●北ふ頭ルート: 8.1km

●北ふ頭ルート: 21[km/h]

「新型コロナ」感染を 収束させたい

何といっても新型コロナウイルスの感染拡大を1日でも早く収束させたいと願っています。コロナ禍により疲弊した経済の再生も最重要課題です。

今回の新型コロナ問題で医療の大切さをしみじみと痛感しました。コロナ対策で中核を担う保健所は、茨城県内に9ヶ所しかなく、神栖市を管轄する潮来保健所は疲弊しております。

茨城県は人口10万人当たりのドクター数が全国ワースト2位で、特に鹿行南部は茨城県平均の半分しかいない医療脆弱地域です。大井川和彦知事を先頭にドクターを確保し、鹿行南部地域の医療充実を図ることが私の使命です。大井川知事と連携して令和6年以降に神栖済生会病院を最終的に350ベッドに増床していきます。



神栖市「人口20万都市構想」を練る
西條昌良県議

夢と希望の持てる 20万中核市に！

茨城県議会議員として8期務めさせていただき、様々な経験を通して「未来永劫栄える茨城県」のために寄与させていただければと考えています。本年は新しい茨城県づくりが本格的な年となります。

大井川知事になってから「企業立地件数全国1位・面積全国2位」などの偉業を成し遂げ、現在は鹿島臨海工業地帯内の工業団地のほとんどが売り切れとなっております。県民所得も全国11位から6位に上昇し、ピーマンやメロンなどの農産物、常陸牛なども人気で海外輸出も積極的に行ってています。

鹿島開発で当初目指したのは30万都市で、将来的に波崎町・神栖町・鹿島町を合併するというものでした。残念ながら鹿島町との合併はできませんでしたが、人口20万都市の中核市の指定を総務省から受けることができれば、保健所を単独で市が設置できたり、保育所や老人ホームの開所が自治体独自で許可できるようになります。

地方分権を更に推し進め、市民が安全・安心と豊かさを実感できる「広域行政」を近隣市と連携して進めていきたいと考えています。



大井川和彦茨城県知事と連携して神栖市「人口20万都市構想」に取り組む西條昌良県議



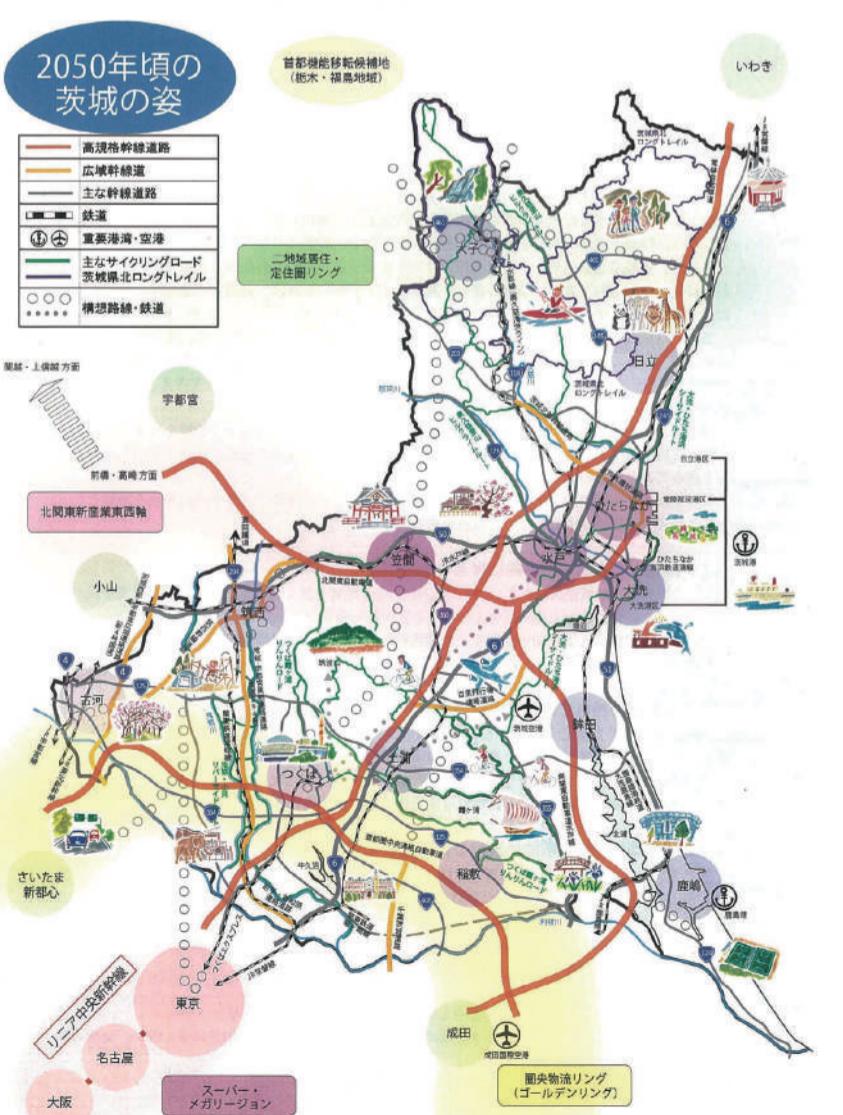
茨城県議会保健福祉委員会で発言する西條昌良県議



鹿島南部「人口20万都市構想」練る！

茨城県議会議員として8期務めさせていただき、様々な経験を通して「未来永劫栄える茨城県」のために寄与させていただければと考えています。本年は新しい茨城県づくりが本格的な年となります。

大井川知事になってから「企業立地件数全国1位・面積全国2位」などの偉業を成し遂げ、現在は鹿島臨海工業地帯内の工業団地のほとんどが売り切れとなっております。県民所得も全国11位から6位に上昇し、ピーマンやメロンなどの農産物、常陸牛なども人気で海外輸出も積極的に行ってています。



カーボンニュートラルに即応する鹿島臨海工業地帯に



国は2050年の「カーボンニュートラル(脱炭素社会)」に向けて、化石燃料を使わない工業に舵を切っています。鹿島臨海工業地帯も環境に優しい二酸化炭素を排出しない工業地帯に変化していく必要性に迫られています。

2012年に鹿島臨海工業地帯で大きな転換期となる出来事がありました。それは新日本製鉄と住友金属製鉄が合併し、2019年には日本製鉄㈱と社名を変更したことです。

鹿島開発の父である岩上二郎元知事の大事業の後、平成という時代は茨城県が更に発展した時代でした。これから令和という時代は現在の発展を止めることなく、安全・安心・国策である「カーボンニュートラル」を推進しつつ豊かさを実感できる茨城県を目指していく必要があります。

鹿島臨海工業地帯も脱炭素化

石炭を溶鉱炉に使う日本製鉄㈱は、2025年に1炉を休止する予定で、従業員千人・下請けと家族を含めると5千人に影響が出ると言われております。国が進める「カーボンニュートラル」は、鹿島臨海工業地帯に大きな影響を及ぼすことは間違ひありません。もちろん神栖市の税収も減ります。

「カーボンニュートラル」政策では2050年までに日本の二酸化炭素排出量をゼロにすることを目指しています。2030年までに46%減、石炭で溶鉱炉を動かしている日本製鉄㈱も大きく舵を切る必要に迫られています。



日本製鉄㈱の橋本英二社長に「茨城カーボンニュートラル産業拠点創出プロジェクト」への協力を求める大井川和彦知事。
右が西條昌良県議



カーボンニュートラルで変革を求める鹿島臨海工業地帯

鹿島臨海工業地帯の将来

鹿島臨海工業地帯は、高松地区・西部地区・東部地区・波崎工業団地の4つで構成されています。三ヶ島ケミカルや鹿島石油、東京電力、信越化学などがある東部工業団地は鹿島石油の原油輸送パイプ一本でつながっており、脱炭素化で「石油から水素と再生可能エネルギー」に転換した場合にどうなるでしょうか？莫大な設備投資が必要で、企業の存続が心配になります。

茨城県総合計画 第2次茨城県総合計画～「新しい茨城」への挑戦～ (4年間／2022～2025年度)	
第1章 将來構想	
第1章 時代の潮流・茨城の認識	第2章 茨城のポテンシャルの発揮と磨き上げ
茨城県が抱くべき大きな課題とその解決策	① 郡内都市生活と働き日帰り通勤の実現 ② 地域活性化と資源循環の実現 ③ 地域社会の持続可能な発展 ④ 地域資源の有効活用と持続可能な社会へ ⑤ 全域リーディング・センター機能の確立へ ⑥ 地域資源の有効活用による持続可能な社会へ
津波・台風等の自然災害への備え	第3章 人口の推移
人口減少率の低減	【人口推移】2000年：295万人口（現）2020年：277万人口 【人口推移】2010年：275万人口 2050年：250万人口 ※人口減少率は、近隣県と比較して最も少ないことを示す
高齢化率の低減	第4章 人口の質
少子高齢化率の低減	【人口構造】2020年：17.7歳（現）2050年：65歳 ※高齢化率は、近隣県と比較して最も低いことを示す
第3章 茨城の特徴	
活力があり、県民が日本一幸せな県	
入居率・賃料・高齢者社会を指向する、ボストコロをうまく取り入れた地域づくり ① 地域活性化と資源循環の実現 ② 地域社会の持続可能な発展 ③ 地域資源の有効活用と持続可能な社会へ ④ 地域資源の有効活用による持続可能な社会へ	第5章 地域づくりの基本方針
高齢者社会を指向する、ボストコロをうまく取り入れた地域づくり ① 地域活性化と資源循環の実現 ② 地域社会の持続可能な発展 ③ 地域資源の有効活用と持続可能な社会へ ④ 地域資源の有効活用による持続可能な社会へ	① 基本的な考え方 ② 地域活性化と資源循環の実現 ③ 地域社会の持続可能な発展 ④ 地域資源の有効活用と持続可能な社会へ
高齢者社会を指向する、ボストコロをうまく取り入れた地域づくり ① 地域活性化と資源循環の実現 ② 地域社会の持続可能な発展 ③ 地域資源の有効活用と持続可能な社会へ ④ 地域資源の有効活用による持続可能な社会へ	第6章 地域区分の考え方 ① 地域活性化と資源循環の実現 ② 地域社会の持続可能な発展 ③ 地域資源の有効活用と持続可能な社会へ
高齢者社会を指向する、ボストコロをうまく取り入れた地域づくり ① 地域活性化と資源循環の実現 ② 地域社会の持続可能な発展 ③ 地域資源の有効活用と持続可能な社会へ ④ 地域資源の有効活用による持続可能な社会へ	第7章 地域のグランディデザイン（2020年版）
高齢者社会を指向する、ボストコロをうまく取り入れた地域づくり ① 地域活性化と資源循環の実現 ② 地域社会の持続可能な発展 ③ 地域資源の有効活用と持続可能な社会へ ④ 地域資源の有効活用による持続可能な社会へ	① 地域活性化と資源循環の実現 ② 地域社会の持続可能な発展 ③ 地域資源の有効活用と持続可能な社会へ ④ 地域資源の有効活用による持続可能な社会へ

茨城カーボンニュートラル 産業拠点創出プロジェクト

鹿島臨海工業地帯は、大きな時代の節目に差しかかっています。「カーボンニュートラル」に向けて上手く乗り切っていかないと、企業の経営は厳しくなります。大井川知事は「茨城カーボンニュートラル産業拠点創出プロジェクト」を2021年に発足させ、我々茨城県議会も情報を的確に収集し、国に働きかけながら鹿島臨海工業地帯が未来永劫栄え続けるため総力を挙げて応援しています。

医療・高齢者福祉の充実

大井川知事を先頭に優秀なドクターを確保し、医療過疎地域といわれる鹿行南部地域の医療充実に努めています。

高齢者福祉に関しては、健常者の皆様には私が運営するケアハウス「マリンピア銚子」で風光明媚な地でシニアライフを楽しんでいただき、介護が必要になった場合には「特別養護老人ホーム・マリンピア神栖」でなくもりあふれる介護に努めています。



ケアハウス・マリンピア銚子(左)と特別養護老人ホーム・マリンピア神栖(右)